

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901304	事業の開始年月日	平成14年4月1日	
		指定年月日	平成14年4月1日	
法人名	有限会社 ケア・ワークきらら			
事業所名	グループホームとまと			
所在地	(〒239-0824)			
	神奈川県横須賀市西浦賀5-33-7 シーサイド池上			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成30年10月28日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人を尊び 命を尊び 個を敬愛する ・ 人生の先輩として尊敬し、個人々を敬愛し、安心と尊厳のある生活を実現するようにつとめます ・ 家庭の延長と考え、認知症の緩和と自立を目指し、安心、自信、健康の増進につとめます ・ 住み慣れた地域生活が継続できるよう、包括的、継続的な支援を行い、地域住民の交流の下で地域活動への参加、安心して日常生活が送れるようお手伝いします

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年11月21日	評価機関 評価決定日	平成31年1月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、京浜急行久里浜駅又は浦賀駅からバスで15分、最寄りのバス停から徒歩3分ほどの立地にある。事業所の前には東京湾が広がり、観光地の「燈明」に行くコース上にある。近くにはヨットが係留できるマリーナがあり、景色が良く、ロケーションを生かし、散歩などの支援を行っている。介護保険制度開始前から宅老所を運営しており、介護保険制度開始と同時に現在地に移転した、経験豊富な事業所である。 【理念の実践】 利用者を人生の先輩として敬い尊び、生活を共にしている。職員は認知症を学び、個人として尊敬できるよう学習している。利用者の意向をくみながら自己決定を大切にし、支援を行っている。家庭の延長と考え、洗濯物たたみやお茶碗拭きなど本人のできる事を支援している。定例会後の会食の実施効果もあり、職員間のコミュニケーションも良くアットホームな環境を作り出している。 【重度化への対応】 重度化に伴い設備や備品などを少しずつ追加、改修し、少しでも自立できるよう皆で考えながら支援している。また協力医の変更に伴い、ターミナルケアの基礎も確立できた。職員にも研修を実施し教育を行っている。看取りの事例はまだないが、家族との連携により重度の方でも安心して暮らせるようになった。現在看取りケアに移行中の利用者の支援を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームとまと
ユニット名	姫とまと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中で住み慣れた地域で生活ができるように掲げてありますように、包括的継続的な支援を行い、安心して生活が送れるように支援していきます。新人研修、マニュアルと共に、理念の共有するとともに実践させています。	設立時に作成した理念を新人研修で教えている。「人を尊び命を尊び個を敬愛する」という理念に常に立ち返れるよう、事あるごとに指導している。理念は各自に配布した研修ノート裏表紙に添付され、職員は理念を元にケアの実践に心掛けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、自治会に加入、地域での行事で、お互いに交流している。運営推進会議、地域包括、民委員、町内会長に参加して頂き情報交換を行っています。お茶や生け花のボランティアさんが来るのを楽しみにしています。	町内会に加入し、祭りの神輿が立ち寄る。昨年は防災訓練に職員が参加した。観光地の燈明に近いため、障害者の立ち寄り場所として、地域に開放している。毎月の華道や茶道のボランティアの他、武蔵野音大の学生ボランティアの演奏会を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの理解と認知症の理解、気楽に立ち寄れるよう1F事務所を開放し、地域会議や集まりに利用してもらおう。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者会議年6回開催。民生委員、町内会長と情報交換を行っています。近隣の方に立ち寄ってもらえるように開放的にして交流を深めています。浦賀エリヤ会議奇数月でグループホームとまと1階事務所で会議を行っています。	年に6回、町内会長・民生委員・オーナー・利用者家族の参加を得て開催している。市の監査課職員が年に1度来るが、地域包括支援センター職員の来所はない。当日は事業所報告や行事の説明などを行い、敬老会やクリスマスなどのイベントを組み合わせている。	地域の問題点を話し合えるよう、今後も地域包括支援センター職員の出席を呼びかけることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは空き情報、又介護認定情報提供して頂いています。グループホーム協議会、小規模事業所連携事業者の研修、講演会を依頼したり運営推進会議等で協力関係を築いています。認知症ケアの会立ち上げ「よろず相談」毎月無料相談会ヴェルクよこすかで開催しております。	運営推進会議の議事録を市の窓口に直接届けている。グループホーム事業所連絡協議会の有志で「横須賀認知症ケアの会」を立ち上げ、月に一回「よろず相談会」を開催している。また空き情報を連絡会のホームページで公開し、利用者への案内を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して常に意識の徹底を図り、身体拘束はなぜ禁止なのか、禁止対象となる具体的な行為を挙げて正しく理解させている。研修会、講習会等に積極的に参加させている。入居者家族にも拘束しない旨を理解していただいている。玄関施錠はしていない、センサーで安全の配慮をしている。	今年度「身体拘束廃止委員会」を中心に、研修会でテレビや新聞報道の事例などを参考に、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。外部研修にも積極的に参加し、伝達研修を行っている。日中は玄関の施錠はせず外出したい素振りの利用者には、職員が付き添って散歩に誘っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、擁護者支援法の勉強会など行っています。言葉の使い方、声の強さ、動作等、職員間で見過ごされないようお互いに注意しております。カンファレンス行う際、職員教育一環と捉え虐待防止の勉強会をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いつまでも自分らしく安心して暮していけるよう日常生活自立支援していく。職員にも成年後継人制度の勉強で、これから活用できるように支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明は入居者・家族に十分に説明、理解、納得しているサービス計画も家族と計画を立てている。。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見・要望苦情など速やかに対応し改善できるように、家族との連絡ノートを居室内に置いてあり意見、要望を書いて、連絡網としている。各居室はボードがあり、思い思いの物が貼ってあります。家族の行事参加率は大変良く、家族同士の交流の場となっている。	年に6回運営推進会議の後に家族交流会を行っている。家族の来所も多いので意見を聞く機会が多い。また居室に「連絡ノート」をおき、職員と利用者家族の双方向のコミュニケーションの助けとなっている。家族から「敬老会は参加者も多く、事業所の経費負担も大きいでしょうから、参加費用を徴収しては？」という趣旨の意見があり、話し合いを行ったが、費用を徴収した結果、参加者が減ってしまうよりは、多くの家族に参加していただく方が喜ばしいとの結論に至った。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、勉強会后、食事を共にし意見がしやすい雰囲気を作っている。記録、日誌、個人ファイルは職員の意見を聞き見やすく記入しやすい一人ひとりの介護支援しやすく、サービス計画がケアマネ一人でなく職員と共に作成致します。	毎月のケア会議や隔月の職員会議で意見を述べる事ができる。職員間の風通しがよく、職員同士で話し合い上司に具申した事案にも対応してもらえる。利用者の状態に応じた食器などの自助具の購入提案等を行っている。職員会議の後には食事会を行い、職員間の意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心をもって働けるよう職場環境、条件に勤めている。処遇改善交付金の交付、賃金改正に取り組み条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の研修、勉強会、講習会へ参加、他のホームの職員とも親しくなっているそうです。 キャリアパス概要を知らせることスキルアップにつなげている。一人ひとりの個人面談をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市浦賀地区6箇所のグループホームと交流が深い。現場研修交流会で相互訪問の活動、勉強会、研修会での交流、協議会の忘年会に参加同業者と仲良くしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査から本人の不安を受け止め、要望等に耳を傾けながら家庭の延長と考えており、信頼関係を築いて安心な介護生活が送れるよう努力する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、本人と家族の不安、要望など話あい、信頼関係を築いていく。地域生活が継続できるよう支援する。行事などにおいても食事を共に、また家族同士が親しくなり家族会が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で利用者・家族と要望を聞き入れサービス計画を作成する		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族、入居者も介護していただいている立場上遠慮し言いたくてもいけない気持ちを察知し、本人が暮しやすく、生活の支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もグループホームとまとの行事、協議会の行事、地域祭り行事に参加、一緒に食事、会話を楽しみ共に支えていく関係を築いていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今で大切にしていた品々。成長した孫の写真や犬、CD等家族がもってきて話はずんでいます	友人の来訪は少なくなったが、料金を現金払いにしていることもあり、家族の来訪が多い。海岸で行われる正月行事の「おんべ」に参加する支援を毎年行っている。家族が来訪しやすいように隔月で家族交流のイベントを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話がはずむように支援している。居室に閉じこもりにならないように共通するレク・遊びを取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、入院、退所後も家族との関係は続いており相談あいて、遊びに来るなどお付き合いが続いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思い出の品、大切にしていた品、写真、今まで愛用していた品、暮らし方の希望、意向は家族と話し合い、今までの家庭の延長と変わらない生活を支援していく。	入所前にアセスメントを行い、入所後1週間、1か月、3か月に再アセスメントを行う。職員は利用者との普段の会話の中で話を聞き取りながら意向の把握に努めている。あまり話さない利用者には表情を察するなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境を変える事がないように趣味を生かし、集団生活で楽しく生活できるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らしを変える事が無いように、家庭の延長と考えてを生活の支援する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成はフロア会議においてモニタリング、家族の意向や意見を出し合って介護計画を作成している。又状態の変化、問題が生じた場合は家族も交えアセスメントの計画の変更をし、介護計画書を作成、家族にも意見を頂き承認してもらう。	アセスメントを基に当日出勤している職員でサービス担当者会議を行い、介護計画原案を作り、家族の意向を聞きながら決定している。介護計画書は、利用者の個人ファイルにはさんで全職員に周知している。通常6か月毎にカンファレンスでモニタリングと評価をし、次の計画を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、日々の生活が解るように、近々の情報を提供している。記録の際、言葉や動作の変化なども介護計画を作成の材料となるので気づきは記載されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に対応している。長く入所の場合は特に問題応じるので柔軟な対応を心がけている。ドライブに植木、花等買う等平凡な毎日をなくす努力をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加、浦賀の花火、おんべ焼き、初詣など地域の行事にも進んで参加しています。近くの参歩を兼ねてスパーにすれ違う人と犬に挨拶ができ楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制、小磯診療所が月2回の提携病院の定期往診、週1回の歯科・口腔ケアの往診、皮膚科は往診依頼すれば、すぐきてくれます。緊急時の往診、は提携病院が往診してくれます。専門外は依頼書を持って受診適切な医療が受けられるよう支援しています。	協力医療機関には内科、精神科、皮膚科があり、看護師と共に往診に来ている。入居者は全員往診を受けている。その他歯科の往診もある。整形外科、耳鼻科などは通院となり、原則家族対応となるが、職員が対応する事もある。また、24時間対応なので、緊急時などにも早期に対応できる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師から毎日の健康管理、提供病院、往診医師との連絡、入居者及び職員が気楽に相談、医師との連絡役になってもらっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族、医師と常に連絡、早期退院にむけての情報交換、今後の方針を決めている。日頃から提携病院、相談員と良い関係にづくりを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターナルケアに取り組んでいる、家族、医師、看護師職員も看取り方針を掲げている。勉強会においても方針を共有し契約時、文章にしてある。緊急時の対応確認書を取り交わしている。	入所時に「重度化した場合における対応の指針」があり、書面で説明し同意書で意向を確認している。協力医を変更したことで家族が希望すれば看取りを行える体制ができた。職員は市や連絡会の看取り研修に参加し学習している。現在、家族と相談し1名の看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて応急手当指導資格を受け、救命救急講習会を開くことができます。職員も消防署で救命講習にいますホームにもADL設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練、グループホーム協議会においても災害対策マニュアル立ち上げました。避難場所が高坂小学校と遠く、避難するには屋上避難が一番と考え、備蓄食料、防災用品は一部屋上においております。指摘されていた夜間訓練を行いました。今後も夜間避難訓練を行っていきます。	4月に避難訓練を行い、利用者全員を1階に避難誘導した。その後花見のイベントを行った。10月は消防設備の点検時に職員と共に機械操作を確認した。屋上階に水を、1階事務所に食料や備品などを保管している。	有事の際に避難計画書に沿った行動が出来るように訓練する事を期待します。また夜間想定訓練の実施も望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で人生の先輩として尊敬し、尊厳のある生活、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけに対応している職員会議等でも常に話し合いのを設けている。	利用者のやりたい事、得意なことを支援するため生活歴を重視している。手工芸や調理、洗濯物たたみや茶碗拭きなど、できる事を支援している。管理者は利用者の名前は「さん」づけで呼び、言葉使いも注意するよう職員に指導している。個人情報を含む書類は鍵のかかる書庫に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断、自己決定、職員に対しても先取りしない言葉かけの訓練勉強している外出、買い物、本人の思いが言葉にして言えるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今での生活を変えないように、一人ひとりの生活に合わせた暮らしを支援している。生け花、お茶、生活の中に取り入れています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身なりを整えることで、明るいく元気になります。理髪後の顔が輝いています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みを大切にしています、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は配送して頂いています。おやつ、くだもには季節の先取りで買いに行きます。お花見のときは全員でレストランに行き食事をします。誕生会・行事には出前等取り寄せいたします。	メニュー付きの食材が1日おきに配達される。各ユニットで職員が調理している。誕生会や敬老会では出前を取る。外食は春の花見の時にファミリーレストランに行くのが恒例になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を配達してもらっています、カロリー、栄養バランス、は十分考えてつくられています。水分摂取が少ない方は、チェック表を活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回口腔ケアを行い、歯科医も週1回往診、歯垢・口腔ケアにきます。一人ひとりの状態に応じた指導、職員指導も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握し、排泄チェック表を活用し自立に向けた支援をしている。排便時も気持ちのよいオシュレットが使えるように3Fもトイレ改造致しました。一連の動作ができるように支援している。	各ユニット2か所にトイレがあり、車いすが入れる広さである。2階のトイレは脱衣所から直接入れて、入浴前後の排泄に便利にできている。利用者の排泄時間のチェックを行い、誘導や声掛けの参考にしている。人前であからさまに誘導しないよう声掛けの仕方に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し下剤服用せず毎日排便があるよう、食事、水分、運動、等考えています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は楽しみの一つで原則は週2回と決めています。シャワー浴、足浴、全身清拭とその人に合わせた援助をしています。清潔は勿論、全身の皮膚状態の観察ができます。機会浴を取り入れた事で職員、入居者、家族も安心して喜んでいます。	週に2回曜日を決めて入浴している。2階の浴室には後付けで昇降機を導入し、重度の利用者も浴槽に入れるようになった。また2階脱衣所から直接トイレに行けるようになっている。入浴を好まない利用者はおらず、入浴剤やゆず湯などを楽しみにしている。毎日足浴などをして寝つきをよくする工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣は勿論のこと、食後の休息その時々に応じた対応している。安眠できるようリネン類、パジャマなど清潔にし、室温調整、熟睡できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理、服薬介助と薬について常に危機感を持ち変化があった場合は医師に連絡している。服薬チェック表は服薬後は確認後サインする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味を生かした役割、できることを喜びに変え生活のなかで支援する。生け花、お茶を楽しんでいます。中庭に休憩所を設けました。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	エレベーター設置により散歩、買い物一人ひとりのニーズに添えるようになりました。散歩回数が多くなり、家族も散歩、外食にと多くなっています。1F脇のテラスで休憩、花の手入れ、水あげ、お茶のみと多くの方が利用されています。介護用車を新しく購入乗り降りが楽になりました。	天気の良い日は職員と共に海岸近くの遊歩道やコンビニにアイスを買に出たりしている。犬の散歩中の近隣の方と挨拶を交わすことが多い。玄関脇のテラスは夏場は暑く今年の利用は少なかったが、春先には日光浴ができる。家族と外食に行ったりすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、散歩途中のコンビニに立ち寄り、買い物を楽しんでいます。お金の所持はありませんがダイエー、コンビニ本人の希望で買い物、に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙、家族とのやりとりの支援している。絵手紙をだし、近況の写真など送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間とキッチンが間近にあり、入居者と職員との距離が身近に感じます。アットホームな雰囲気を取り入れています。キッチンに立っただけで全部を見渡せる位置にあり大きな窓と海が見渡せます、料理の手伝いをして頂きます。いつも笑いがてえないホームです。	居間にある大きな窓からは東京湾が見渡せ、天気の良い日は房総半島が望める。屋上も広い。1階のホールは催し物や茶道のお点前ができ、利用者の楽しみになっている。居間と隣り合わせのキッチンから利用者の様子が見て取れる。職員は毎朝窓を開け外気を取り入れたり、少しでも広く使うために整理整頓を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではテーブル位置を変えたりして居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた品々、ボードには写真、手紙、季節の花、清潔で、安心して過ごせるように一人ひとりの生活空間になっています、と生け花を通して季節を楽しんでいます。	居室はエアコン、照明器具、ベッド、タンス、カーテンなどを備えている。利用者は時計やテレビ、カレンダー、ぬいぐるみなど持ち込んでいる。家族の写真や観葉植物など思い思いに飾り、居心地よく暮らせるよう工夫している。家族とのコミュニケーションをとるために「連絡ノート」が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境で、自立度を生かした環境づくり、混乱や失敗を防ぐよう支援している。		

事業所名	グループホームとまと
ユニット名	若とまと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中で住み慣れた地域で生活ができるように掲げてありますように、包括的継続的な支援を行い、安心して生活が送れるように支援していきます。新人研修、マニュアルと共に、理念の共有するとともに実践させています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、自治会に加入、地域での行事で、お互いに交流している。運営推進会議、地域包括、民委員、町内会長に参加して頂き情報交換を行っています。お茶や生け花のボランティアさんが来るのを楽しみにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの理解と認知症の理解、気楽に立ち寄れるよう1F事務所を開放し、地域会議や集まりに利用してもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者会議年6回開催。民生委員、町内会長と情報交換を行っています。近隣の方に立ち寄ってもらえるように開放的にして交流を深めています。 浦賀エリヤ会議奇数月でグループホームとまと1階事務所で会議を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは空き情報、又介護認定情報提供して頂いています。グループホーム協議会、小規模事業所連携事業者の研修、講演会を依頼したり運営推進会議等で協力関係を築いています。認知症ケアの会立ち上げ「よろず相談」毎月無料相談会ヴェルクよこすかで開かれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して常に意識の徹底を図り、身体拘束はなぜ禁止なのか、禁止対象となる具体的な行為を挙げて正しく理解させている。 研修会、講習会等に積極的に参加させている、。入居者家族にも拘束しない旨を理解していただいている。 玄関施錠はしていない、センサーで安全の配慮をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、擁護者支援法の勉強会など行っています。言葉の使い方、声の強さ、動作等、職員間で見過ごされないようお互いに注意しております。カンファレンス行う際、職員教育一環と捉え虐待防止の勉強会をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いつまでも自分らしく安心して暮していけるよう日常生活自立支援していく。職員にも成年後継人制度の勉強で、これから活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明は入居者・家族に十分に説明、理解、納得しているサービス計画も家族と計画を立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見・要望苦情など速やかに対応し改善できるように、家族との連絡ノートを居室内に置いてあり意見、要望を書いて、連絡網としている。各居室はボードがあり、思い思いの物が貼ってあります。家族の行事参加率は大変良く、家族同士の交流の場となっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、勉強会后、食事を共にし意見がしやすい雰囲気を作っている。記録、日誌、個人ファイルは職員の意見を聞き見やすく記入しやすい一人ひとりの介護支援しやすく、サービス計画がケアマネ一人でなく職員と共に作成致します。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心をもって働けるよう職場環境、条件に勤めている。処遇改善交付金の交付、賃金改正に取り組み条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に研修、勉強会、講習会へ参加、他のホームの職員とも親しくなっているそうです。 キャリアパス概要を知らせることスキルアップにつなげている。一人ひとりの個人面談をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市浦賀地区6箇所のグループホームと交流が深い。現場研修交流会で相互訪問の活動、勉強会、研修会での交流、協議会の忘年会に参加同業者と仲良くしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査から本人の不安を受け止め、要望等に耳を傾けながら家庭の延長と考えており、信頼関係を築いて安心な介護生活が送れるよう努力する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、本人と家族の不安、要望など話あい、信頼関係を築いていく。地域生活が継続できるよう支援する。行事などにおいても食事を共に、また家族同士が親しくなり家族会が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で利用者・家族と要望を聞き入れサービス計画を作成する		
		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族、入居者も介護していただいている立場上遠慮し言いたくてもいえない気持ちを察知し、本人が暮しやすく、生活の支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もグループホームとまとの行事、協議会の行事、地域祭り行事に参加、一緒に食事、会話を楽しみ共に支えていく関係を築いていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今で大切にしていた品々。成長した孫の写真や犬、CD等家族がもってきて話がはずんでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話がはずむように支援している。居室に閉じこもりにならないように共通するレク・遊びを取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、入院、退所後も家族との関係は続いており相談あいて、遊びに来るなどお付き合いが続いています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思い出の品、大切にしていた品、写真、今まで愛用していた品、暮らし方の希望、意向は家族と話し合い、これまでの家庭の延長と変わらない生活を支援していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境を変える事がないように趣味を生かし、集団生活で楽しく生活できるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らしを変える事が無いように、家庭の延長と考えてを生活の支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成はフロー会議においてモニタリング、家族の意向や意見を出し合って介護計画を作成している。又状態の変化、問題が生じた場合は家族も交えアセスメントの計画の変更をし、介護計画書を作成、家族にも意見を頂き承認してもらう。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、日々の生活が解るように、近々の情報を提供している。記録の際、言葉や動作の変化なども介護計画を作成の材料となるので気づきは記載されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に対応している。長く入所の場合は特に問題応じるので柔軟な対応を心がけている。ドライブに植木、花等買う等平凡な毎日をなくす努力をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加、浦賀の花火、おんべ焼き、初詣など地域の行事にも進んで参加しています。近くの参歩を兼ねてスパークにすれ違う人と犬に挨拶ができて楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制、小磯診療所が月2回の提携病院の定期往診、週1回の歯科・口腔ケアの往診、皮膚科は往診依頼すれば、すぐきてくれます。緊急時の往診、は提携病院が往診してくれます。専門外は依頼書を持って受診適切な医療が受けられるよう支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師から毎日の健康管理、提供病院、往診医師との連絡、入居者及び職員が気楽に相談、医師との連絡役になってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族、医師と常に連絡、早期退院にむけての情報交換、今後の方針を決めている。日頃から提携病院、相談員と良い関係にづくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターナルケアに取り組んでいる、家族、医師、看護師職員も看取り方針を掲げている。勉強会においても方針を共有し契約時、文章にしてある。緊急時の対応確認書を取り交わしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて応急手当指導資格を受け、救命救急講習会を開くことができます。職員も消防署で救命講習にいらっていますホームにもADL設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練、グループホーム協議会においても災害対策マニュアル立ち上げました。避難場所が高坂小学校と遠く、避難するには屋上避難が一番と考え、備蓄食料、防災用品は一部屋上においております。指摘されていた夜間訓練を行いました。今後も夜間避難訓練を行っていきます。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で人生の先輩として尊敬し、尊厳のある生活、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉がけに対応している職員会議等でも常に話し合いの設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断、自己決定、職員に対しても先取りしない言葉がけの訓練勉強している外出、買い物、本人の思いが言葉にして言えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今での生活を変えないように、一人ひとりの生活に合わせた暮らしを支援している。生け花、お茶、生活の中に取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身なりを整えることで、明るいく元気になります。理髪後の顔が輝いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みを大切にしています、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は配送して頂いています。おやつ、くだもには季節の先取りで買いに行きます。お花見のときは全員でレストランに行き食事をします。誕生会・行事には出前等取り寄せいたします。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を配達してもらっています、カロリー、栄養バランス、は十分考えてつくられています。水分摂取が少ない方は、チェック表を活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回口腔ケアを行い、歯科医も週1回往診、歯垢・口腔ケアにきます。一人ひとりの状態に応じた指導、職員指導も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握し、排泄チェック表を活用し自立に向けた支援をしている。排便時も気持のよいオシュレットが使えるように3Fもトイレ改造致しました。一連の動作ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し下剤服用せず毎日排便があるよう、食事、水分、運動、等考えています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は楽しみの一つで原則は週2回と決めています。シャワー浴、足浴、全身清拭とその人に合わせた援助をしています。清潔は勿論、全身の皮膚状態の観察ができます。機会浴を取り入れた事で職員、入居者、家族も安心して喜んでいきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣は勿論のこと、食後の休息その時々に応じた対応している。安眠できるようにネン類、パジャマなど清潔にし、室温調整、熟睡できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理、服薬介助と薬について常に危機感をもち変化があった場合は医師に連絡している。服薬チェック表は服薬後は確認後サインする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味を生かした役割、できることを喜びに変え生活のなかで支援する。生け花、お茶を楽しんでいます。中庭に休憩所を設けました。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	エレベーター設置により散歩、買い物一人ひとりのニーズに添えるようになりました。散歩回数が多くなり、家族も散歩、外食にと多くなっています。1F脇のテラスで休憩、花の手入れ、水あげ、お茶のみと多くの方が利用されています。介護用車を新しく購入乗り降りが楽になりました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物、散歩途中のコンビニに立ち寄り、買い物を楽しんでいます。</p> <p>お金の所持はありませんがダイエー、コンビニ本人の希望で買い物、に行っています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話や手紙、家族とのやりとりの支援している。絵手紙をだし、近況の写真など送っています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間とキッチンが間近にあり、入居者と職員との距離が身近に感じます。アットホームな雰囲気を取り入れています。</p> <p>キッチンに立っているだけで全部を見渡せる位置にあり大きな窓と海が見渡せませす、料理の手伝いをして頂います。いつも笑いがてえないホームです。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間ではテーブル位置を変えたりして居場所の工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた品々、ボードには写真、手紙、季節の花、清潔で、安心して過ごせるように一人ひとりの生活空間になっています、と生け花を通して季節を楽しんでいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境で、自立度を生かした環境づくり、混乱や失敗を防ぐよう支援している。		

